

論文内容要旨

論文題目

母親の自覚に基づく母乳育児確立のアセスメントツールの開発

教育・研究領域：生涯生活支援看護学

氏名：山田 志枝

【内容要旨】

本研究は、母親の自覚に基づく母乳育児確立の状態を捉えるためのアセスメントツールの開発を目的とした。

これまでに明らかにした母乳育児確立の概念分析や質的研究の結果を基に、66項目の「母親の自覚に基づく母乳育児確立評価尺度（試作版）」を作成した。その結果を基に、18項目の「母親の自覚に基づく母乳育児確立評価尺度（本調査版）」を作成し、信頼性と妥当性を検証した。

その結果、「母親の自覚に基づく母乳育児確立評価尺度（最終版）」は4因子17項目から構成され、第1因子から第4因子までのCronbach's α 係数はいずれも0.75以上で、尺度全体の α 係数は0.88であったことから、信頼性と構成概念妥当性を確認した。また尺度合計得点において、児の栄養方法別に有意な差がみられたことから、基準関連妥当性を確認した。

以上のことから、「母親の自覚に基づく母乳育児確立評価尺度（最終版）」の信頼性と妥当性が検証された。

(399字)

令和 2 年 7 月 2 日

山形大学大学院医学系研究科長 殿

学位論文審査結果報告書

申請者氏名： 山田 志枝

論文題目：母親の自覚に基づく母乳育児確立のアセスメントツールの開発

審査委員：主審査委員 齋藤 貴史



副審査委員 布施 淳子



副審査委員 佐藤 幸子



審査終了日：令和 2 年 6 月 24 日

【 論 文 審 査 結 果 要 旨 】

平成 27 年度乳幼児栄養調査によれば、わが国では 9 割以上の母親が妊娠中に母乳育児を希望しているが、生後 3 ヶ月までの母乳栄養だけで育児をしている母親は約半数に過ぎず、母親の希望通りに母乳育児が行えていないのが現状である。また同調査結果から、母親が母乳育児を一度確立すると継続が容易であると推察されることから、母乳育児の継続にはその確立に焦点を当て支援することが重要である。母乳育児確立の概念分析による先行研究から、母乳育児確立の状態を的確に捉えるには、自信を含む母親の自覚から母乳育児が確立されているか、という視点で検討することが必要であるが、母親のそのような状態を評価する尺度は見当たらない。本研究の目的は、母親の自覚に基づく母乳育児確立の状態を評価するためのアセスメントツールを開発することである。研究 1 では、先行研究に基づいて母乳育児確立に関する母親の自覚を表す質問項目を選定し、「母親の自覚に基づく母乳育児確立評価尺度（試作版）」を作成し、市町村の健診時または育児教室で、母乳育児中の母親を対象に無記名式自記式質問紙調査を行った。質問は 66 項目よりなり、対象者より 231 部（有効回答率 49.0%）の有効回答を得た。探索的因子分析の結果、信頼性と構成概念妥当性が統計的に確認されたのは 7 因子 39 項目であった。研究 2 では、上述の 39 項目から因子負荷量の高い項目を抜粋し、18 項目からなる「母親の自覚に基づく母乳育児確立評価尺度（本調査版）」を作成し、産科施設の健診時に母乳育児中の母親を対象に無記名式自記式質問紙調査を行った。対象者より 294 部（有効回答率 60.5%）の有効回答を得た。探索的因子分析の結果、信頼性と構成概念妥当性が統計的に確認されたのは 4 因子 17 項目であった。児の栄養方法別に尺度合計得点の比較を行ったところ、「母乳のみ」群の合計得点が「母乳のみ」以外の栄養法を行っている他群に比し高値であり、基準関連妥当性が確認された。これらの 4 因子は母乳育児に関して、「母乳が足りている自信」、「母乳育児をすることでの充実感」、「授乳のペースができた」、「夫からのサポート」を表現しており、各因子につき 2~7 項目の合計 17 項目で構成されている。本研究において、この 4 因子 17 項目は、「母親の自覚に基づく母乳育児確立評価尺度（最終版）」として提唱され、母乳育児中の母親へのセルフケア能力支援や母乳育児に関わる保健医療指導、等への活用が期待

される。本研究について論文および口頭発表にて審査した結果、本研究は、目的が明確で方法も妥当であり、結果には新知見が含まれ、今後の看護の発展に寄与する内容であり、学位論文（博士）として相応しいと評価した。